

数字でみるかわさきの20年 区別にみる人口

川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）が1999年9月に開館して今年20周年を迎えます。今号から、20周年記念行事の一環として、かわさきのおよそ20年の変化を数字でみるシリーズを始めます。第1回は、「区別にみる人口」です。人口に加え、人口変化と関わりが深い「性比」「老年化指数」を見ることで、川崎市の特徴を知ってください。

人口

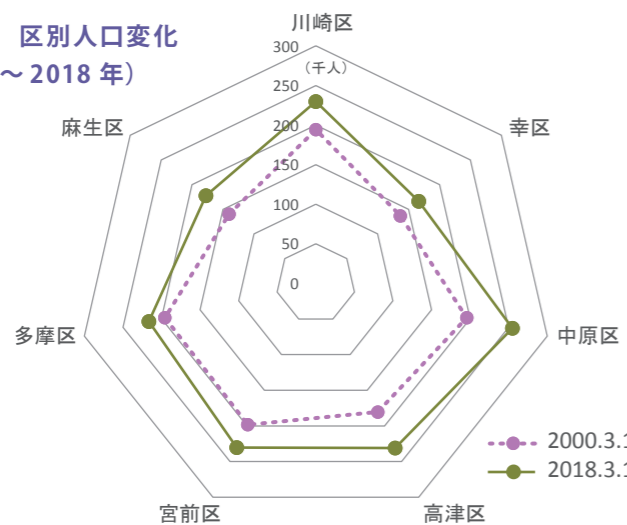
124万1千人 から **151万6千人**
 (2000年川崎市) (2018年川崎市)

27万5千人増 ↗

※ 1億2692万6千人 (2000年全国) から
 1億2649万6千人 (2018年全国) ▲43万人減

全国的に見て8割以上の市町村で人口減少しているなか、人口が増加しているまち

川崎市 区別人口変化 (2000～2018年)



20年前は7区とも男性割合が高かったのですが、現在、麻生区、宮前区は、女性人口が男性人口より多くなっています。

7区とも人口は増加。特に中原区、高津区は、人口増加率が高くなっています。

性比

108.3 から **102.6**

(2000年川崎市) (2018年川崎市)
 ※ 95.8 (2000年全国) から 94.8 (2018年全国)



全国と比較して、男性人口の多いまち

性比とは、女性100人に対する男性の数。数値が100より大きいと男性の数が女性を上回っていることを示します。

老年化指数

90.6 から **162.0**

(2000年川崎市) (2018年川崎市)
 ※ 119.1 (2000年全国) から 230.6 (2018年全国)
 ※ 100.5 (2000年横浜市) から 197.6 (2018年横浜市)



徐々に少子高齢化しているものの、全国平均との比較で、若いまち

老年化指数とは、年少人口(0～14歳)に対する老年人口(65歳以上)のことで、端的に高齢化の程度を示すことから、よく用いられています。

	総数	女性	男性
川崎市	43.4	44.5	42.4
川崎区	44.5	45.6	43.5
幸区	44.6	45.9	43.3
中原区	41.0	41.9	40.1
高津区	42.6	43.6	41.6
宮前区	44.1	45.1	43.0
多摩区	43.2	44.5	42.0
麻生区	45.0	46.0	43.9

注:「川崎市年齢別人口—平成30年10月1日現在—」より作成。

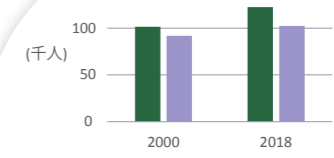
区別の平均年齢をみると、もっとも高いのは麻生区の45.0歳で、もっとも低いのは中原区の41.0歳です。

幸区



性比	107.6	→	101.9
老年化指数	131.5	→	176.7

川崎区



性比	113.8	→	115.9
老年化指数	140.3	→	197.0

各区のデータの見方
 ■ 男性の人口 ■ 女性の人口
 ※各区の、性比:2000年(左)と2018年(右)、老年化指数:2002年(左)と2018年(右)。

参考文献等
 注:特に断らない限り、グラフは「川崎市の世帯数・人口、区別人口動態、区別市外移動人口」より作成。
 川崎市「川崎市年齢別人口—平成30年10月1日現在—」2018年
 川崎市「川崎市の世帯数・人口」 [http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-3-1-0-0-0-0-0.html](http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-3-1-0-0-0-0-0-0.html) (2018年12月18日取得)
 第2部 年齢別人口(平成30年1月1日現在)横浜市 <http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/dotai/new/2.pdf> (2018年12月19日取得)
 総務省統計局「人口推計—2019年(平成31年)1月報—」 <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/201901.pdf> (2019年1月23日取得)
 総務省統計局「人口推計/各月1日現在人口」(参考表)全国人口の推移